

# 日本技術士会「第44回全国大会」 山口で開催、600人が参集 誇りを持って社会に貢献を



あいちのり  
高木会長

【防府】(公社)日本技術士会(高木茂知会長)の「第44回技術士全国大会(山口)」が20日から23日まで、山口市吉敷下東の県健康づくりセンター



式典のもよう

をメイン会場に開かれた。全国から約600人が集まり、人々に豊をもたらす未来の姿「超スマート社会」の実現に向け、多様な専門性を持つ技術士が挑戦し貢献することを決意した。

今年大会は「維新百五十年〜新しい時代を創る技術士の役割〜」をテーマに、新技術(地方創生と新技術)、防災(防災分野のICT活用推進における技術士の役割)、技術者倫理(次世代技術者の育成と技術者倫理)、青

年技術士(科学技術の発展の在り方とは)の四つの分科会、建設部会や下水道部会など各部会の講演会、交流会、見学会、アルピニストの野口健氏による「富士山から日本を愛する」と題した記念講演などが行われた。

21日の大会式典には、林芳正文部科学大臣(代理)や村岡嗣政山口県知事、坂井康宏中国四国農政局長らが出席。大会運営委員長の大田一夫中国本部長の歓迎挨拶に続き、高木会長は式辞で

「山口は、幕末維新の頃に新しい時代、新しい国家をつくらうと多くの志士が活躍した地で、ここから近代日本がかたちづくられた。欧米諸国の社会制度と科学技術を導入するために外国人教師や技術者を雇用し、技術者の養成に力を入れてきた。現在政府では、科学技術イノベーション立国を据え、『超スマート社会』の実現に向け取り組んでいる。複雑化する社会の課題解決には社会の最適化が必要で、この実現には技術士の活躍が欠かせない。技術士会が保有する多様性を生かし、統合化していくことで科学技術イノベーション立国の実現に貢献する。このためには、技術士が技術士としての誇りを持って社会に貢献することが重要」とあいさつした。

また、来賓を代表して林大臣代理で佐野太科学技術学術政策局長、村岡知事、渡辺純忠山口市長代理の伊藤和貴副市長、坂井局長、川崎茂信中国地方整備局長代理廣川誠一山口河川国道事務所長が「グローバル化の中、技術士の能力を最大限に発揮して活躍するには、技術者の資質能力が国際的に適切に評価されることが重要。国際的な枠組みの中で技術士資格が国際社会で認められるよう、国際基準に合致する資格となるよう検討する。また、IoTをはじめ生産性の向上を図る上で技術士の役割はますます重要となり、専門的な知識と技術で多岐にわたる問題解決や技術開発、品質確保、技術の伝承に對して先導的な役割を果たしている」と祝辞を述べ、技術士のさらなる活躍に期待した。

最後に、①高い専門性と倫理観を維持するための継続研さんに努めるとともに、21部門にわたる多様な技術分野の技術士が集結することで社会ニーズに応える②産官学と緊密に連携して科学技術イノベーションに取り組むとともに、それを担う多様な人材の育成を支援する▽地域・社会に根ざし、防災、減災や地方創生など公益にかかわる技術貢献に取り組むと大会宣言した。